

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 4月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2290300017
法人名	有限会社 それいゆ
事業所名	ぐるーぷほーむ 「しあわせの家」かななみ
所在地 (電話番号)	田方郡函南町間宮 617-3 (055-979-7600)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年3月14日

## 【情報提供票より】(平成21年2月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 1人/ 非常勤13人/ 常勤換算4.1人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木質構造 造り	
	2階建ての2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥60,000		その他の経費(月額)	¥34,000
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	¥200,000	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	¥250	昼食	¥350
	夕食	¥350	おやつ	¥50
	または1日当たり ¥1,000			

### (4) 利用者の概要(平成21年2月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	82 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	蛇が橋クリニック・NTT東日本伊豆病院・さくらい歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームで力を入れて取り組んでいることとして1. 地域交流 2. 職員の資質向上を挙げている。地域の人たちによるケアでホームを守ってゆくことを理想として管理者は、地域住民の出入りがもっと必要であることを理解してもらうために発信を続け、自ら地域のサロンで認知症に関する研修を開いた。また職員の育成にも力を注ぎ能力開発の課題を課し職員が達成感を持てるようバックアップしている。開設2年に満たないホームであるが完成度が高いのはこの辺りに起因するものと考え。日常の業務を消化しつつ課題に取り組む職員にも敬意を表したい。レベルの高い介護職を目指すには最適の職場と思われる。積極的に自らを鍛えて自慢のホーム作りを担っていただきたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	研修計画の策定は、年間計画を立て研修内容に相応しい参加職員の選定がされている。同業者との交流は地域ケア会議で意見交換をしており、職員の交換研修は今後予定されている。災害時の地域協力体制については自治会にお願いしてブロックの避難訓練に参加した。介護計画見直しは今後の課題であり、その結果75%の改善が見られた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は一式を全職員に配布して記入してもらった。家に持ち帰って悩みつつ書いたと話す職員もいたが、びっしり書き込まれた報告書からは全職員が真剣に取り組んだことがうかがえた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されている。入退居状況から利用者の様子・職員研修・地域交流・家族アンケートの結果等に加えヒヤリハット事故報告まで明らかにして透明性を確保している。地域委員の協力もあり、地域の避難訓練や区民体育祭に参加、ボランティアの訪問など交流が増えて利用者の安全や楽しみに繋がっている。悠々サロンでの認知症に関する研修はホームからの地域貢献であり、運営推進会議の目的が果たされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回家族アンケートを実施している。日々の対応の中で直接意見を聞くこともある。利用者の健康面について、職員に対するもの、事務に関する事柄、訪問客についてと様々な意見や要望に対して早期に担当者がわかりやすい説明で対応し、話し合うべきものは職員間で話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、利用者は地域の悠々サロンに参加して交流を楽しんでおり、そこで知会合えた方がボランティアとして利用者の話し相手に気軽に訪れてくれる。近所の子供が遊びにきたり、保育園との交流、小中高生の福祉体験受入れと孫世代と交流する機会もある。民生委員高齢者部会18名が見学を訪れ、想像よりも明るいと印象を語っていたが、地域の方々にはホームの正しい認識を広める機会ともなった。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念「私たちは、誇りをもって『福祉のこころ』をお届けします」、運営方針「利用者の尊重・自己研鑽・地域密着」、加えてグループホームの理念「飛躍・創造・感謝」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現のために様々な工夫がされている。「リーダーの心得」や「目標管理」等システムへの取り組みは理念へ回帰している。「自分は忙しく、ホールはゆったり」との具体的な言葉も『福祉のこころ』に繋がるものと理解できる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の子供からお年寄りまで参加できる悠々サロンに出席して交流を持っている。サロンからは傾聴ボランティアとして訪問したり毎月定期的なお楽しみボランティアの訪問もある。近所の魚屋やパン屋さんとも馴染みである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果について、研修計画の策定、同業者との交流、災害時の地域協力体制等改善を図っており、その結果75%の改善が見られた。自己評価は全職員で取り組み、職員が評価の意義を理解しホームの質を高める機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域委員の協力もあり、自主防災の避難訓練や区民体育祭に参加、気軽なボランティアの訪問など地域との交流が増えて利用者の安全や楽しみに繋がっている。悠々サロンでの認知症に関する研修はホームからの地域貢献であり、運営推進会議の目的が果たされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが開催する地域ケア会議や高齢者安心ネットワーク・ホットラインの推進に協力すると共に、介護現場の状況を他市町村との比較データを示して説明、増床の必要性や町としてのサービスの向上に資するよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊のホーム便りを発刊して金銭報告、バイタル記録と共に家族に送付している。その際同封しているケース記録の抜粋はパソコンに堪能な管理者によるホーム独特の報告資料であり、家族は利用者の暮らしを具体的に理解している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケートを実施している。日々の対応の中で直接意見を伺うこともある。利用者の健康面について、職員に対するもの、事務に関する事柄、訪問客についてと様々な意見や要望に対して早期に関係者がわかりやすい説明で対応し話し合うべきものは職員間で話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職には研修制度を採っており、実際に業務に入ってみて再度話し合っ採用を決めている。年2回の面談や新人職員の外部研修参加等自己研鑽が可能であり、職員が休憩時間を取ることでより良いケアが提供出来るとの見地から休憩が取れるシステム作り等、働きやすい職場作りに配慮し離職を防いでいる。	○	職員が代わる不安を利用者が抱えていることから、離職時・入職時等家族を含めての説明が望まれる。また、介護保険改正時には運営推進会議等を通じて判りやすい解説で介護業界の実情について家族の理解を求めることも望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の為、年間の研修計画を立て研修内容に相応しい参加職員の選定がされており、研修で受けた感激が熱いうちに報告研修を行って他の職員と共有している。また能力開発の課題として自己目標を立て発表・評価を経て到達までを管理者がバックアップしており、中には論文になりうる内容のものまで生まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議で他事業所と交流している。職員レベルでの交流を他事業所に打診したが実現には到っていない。	○	今後、内諾を得た事業所との交流が予定されているので職員が大いに刺激を受けて、自信をつけたり気づきを感じ取って利用者のサービス向上に繋げることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者には体験利用も可能である。家族にも協力してもらい利用者が不安を抱かないよう配慮している。また、すでに暮らしている利用者への影響や職員の負担も考慮して利用の可否を決定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当然のことながら利用者には様々な経歴があり、職員にとっては人生の大先輩であり、言葉の端々に生き様が垣間見えて多くを学ぶことができる。職員からは「大変な仕事ではあるがその分喜びもいただいている」との話が聞かれた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて情報を収集して、生活歴や暮らし方の希望を把握している。聴力に障害がある利用者とはホワイトボードでコミュニケーションを取ったり、夜勤時に利用者の話にじっくり耳を傾けグループホームならではの工夫で利用者の思いを汲み取ることに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の職員の観察を活かした介護計画となるよう毎月の会議でカンファレンスの時間を設けている。サービス担当者会議は看護師・夜勤者・担当職員が意見を持ち寄り、利用者や家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に半年毎に見直している。日に2回の計測により利用者のバイタルサインを捉えており、大きな変化が見られた場合は家族と相談して現状に適した新たな介護計画を作成している。	○	見直しのための前回評価が、次回の介護計画に繋がる仕組みの構築や、細やかな見直しの実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添えない場合のかかりつけ医の受診や買い物等に柔軟に対応している。また地域住民に認知症への正しい理解を深めるための研修を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、従来からのかかりつけ医やホーム協力医に受診している。協力医の受診は職員が、かかりつけ医の受診は家族と職員が連携して行っている。月2回の往診も始まり希望者は利用している。平日には看護師資格を有する職員が介護に入っており、利用者や他の職員に安心をもたらしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時にホームとして対応できることの限度を説明している。利用者の重度化に職員は看護師から体位交換や処置、排便や移乗を学び、家族や医師と連携、家族も毎日訪問して職員と方針を共有し取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員ヒアリングにおいて、ホームでは利用者に乱暴な言葉で対応する職員はいないことが確認できた。また、ホームの雰囲気からもそうであることがうかがえた。個人情報にも配慮しており、来客等訪問表は個票の形式にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の予定は凡そ決まっているが一人ひとりの様子を見て対応している。利用者が不穏の場合にも利用者の側に立つことを自分に課したり、アセスメントシートから利用者の喜ぶことを頭に入れた会話をするように心がけている。脱園願望には止めることなく一緒に外へ出て歩いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ、畑で収穫した野菜も使ってバランスの取れた献立が作られている。定期的に板前さんの料理も楽しめ、銘々盆に載ったおせち料理は豪華なものである。何よりも職員と一緒にテーブルについておしゃべりしながらの食事風景が和やかであった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	白く清潔なゆったりした浴槽で利用者は希望するときに入浴している。入浴剤や季節の植物を用いた風呂で香りや季節の習慣を楽しめる支援がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	学校給食の仕事に就いていた利用者が職員と料理作りを、縫い物の得意な利用者が衣類の名札付けをしている姿が当日見られた。洗濯物を畳んだり畑の作業をしたり、昔の趣味の山の写真を楽しんだり、自慢の息子さんの話題を出して笑顔を引き出したりと個々の得意なことや楽しみごとが出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭での外気浴や周辺の散歩やドライブと天気の良い日は一回は外に出る機会を確保している。近所のパン屋や魚屋への買い物は職員と共に行き品選びをしている。地域行事の参加やホーム行事の遠足も楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は拘束することの弊害を理解しており、日中は鍵をかけない暮らしを支援している。利用者の安全のためにやむを得ずユニット出入口に鍵をかける場合は理由と時間を記録している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した訓練に加え、地域自治会に働きかけ、地域自主防災の避難訓練に参加している。	○	様々な機会を通して地域から非常時・災害時の協力が得られるよう継続して取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量・水分摂取量共に記録されている。不足することが無いよう声かけして水分確保に努め、医師から指示がある利用者には計量して適正な水分摂取を支援している。またコレステロール等個々の健康状態に配慮した食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のプランターには春の花が咲き、訪れる人を迎えている。居間は必要以上に飾り立てずそれだけに利用者の見事な刺繍の作品が心を打つ。近所の子供の絵もほほえましい。和室には生花が生けられ一般の家庭の雰囲気である。ゆったりした浴槽や洗面台も磨かれホーム全体に清潔感が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の遺影や免許証を飾ったり、仏壇を置いている居室も見られた。趣味のフランス刺繍の作品をはめ込んだ家具や額に囲まれたその人らしさの溢れた居室もあるが利用者によっては家族と相談してシンプルな設えにしている居室もあり個々に応じた部屋作りが支援されている。		